

# 授業科目 臨床免疫学 I

【担当教員名】 川村 宏樹		対象学年	3	対象学科	臨床
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○			
【概要・一般目標：GIO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>免疫学の基礎理論として、抗原、抗体、補体の性状・機能や抗原抗体反応の原理を学習し、疾患と免疫検査の概要を理解する。</li> <li>生体防御機構として、免疫担当細胞の機能を学び、抗体産生・細胞性免疫等の免疫応答を理解する。</li> </ol>					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>免疫応答の機序を説明できる。</li> <li>生体防御機構を説明できる。</li> <li>免疫学的臨床検査方法の基礎を説明できる。</li> <li>免疫学の進歩に伴う新しい検査方法の原理と応用について推論できる。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	免疫学概要 現在までの免疫学の発展			1	講義
2	細胞免疫学 細胞及び組織			1	講義
3	免疫担当細胞 体液性免疫と細胞性免疫			1,2	講義
4	免疫担当細胞 自然免疫と獲得免疫			1,2	講義
5	免疫担当細胞 抗原提示細胞			1,2	講義
6	免疫担当細胞 その他の細胞			1,2	講義
7	抗原 抗原の定義、構造、種類			1,2	講義
8	抗体 抗体の定義、分類、構造、機能と生理活性（1）			1,2	講義
9	抗体 抗体の定義、分類、構造、機能と生理活性（2）			1,2	講義
10	補体 補体の定義、構造、生理活性			1,2	講義
11	抗原抗体反応検査 反応の種類と特異性			3,4	講義
12	抗原抗体反応検査 沈降反応と凝集反応			3,4	講義
13	抗原抗体反応検査 溶解反応と補体結合反応			3,4	講義
14	抗原抗体反応検査 中和反応とその他の免疫学的分析法			3,4	講義
15	生体内抗原抗体反応検査			3,4	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		臨床検査学講座 免疫検査学第2版	窪田 哲朗 他	医歯薬出版	2013・5,600円＋税
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 小テスト（30%）、定期試験（70%）		【履修上の留意点】 講義の内容は広範囲になるので予習、復習を必ずしておくこと。また、臨床免疫学 II を学ぶためにも本講義の内容を十分理解することが必須であるため、不明な点は質問をするなど早期に解決すること。			